

1 中郡中学校グランドデザイン



2 自己評価結果

項目番号	分類	質問内容	質問項目	対象	1とても思う	2思う	3あまり思わない	4思わない
1	教育目標	自分に誇りを持ち、充実した学校生活を送ることができると思いますか。	学校教育目標	職員	13	74	13	0
生徒				33	57.3	9.1	0.6	
2		将来に対する夢や希望、見通しを持って生活することができると思いますか。	キャリア教育	保護者	14.7	66.3	15.8	3.2
3		学校での学習や授業を通して、基礎的な知識身に付けることができますか。	学習への取組	職員	0	69.6	30.4	0
4	知	家庭内で自分の意見や考えを積極的に発言したり、話し合ったりすることができますか。	言語活動	生徒	31.6	46.2	19.6	2.6
5				家庭学習（宿題など）の習慣が身に付き、しっかり取り組むことができますか。	保護者	8.9	47.4	37.6
6		情報端末を使ったことで、ICTスキルや情報収集・活用能力を高めたと思いますか。	ICT活用	職員	8.7	73.9	17.4	0
7		ルールやマナー守って生活できていると思いますか。	規範意識	生徒	32.2	54.7	11.4	1.7
8		友達や先生や地域の人に自ら進んであいさつができますか。	礼儀・あいさつ	保護者	12.6	55	25	7.4
9		思いやりや優しさをもって、周囲の人に接することができますか。	思いやり	職員	4.4	60.9	30.4	4.3
10	心	自分で考えて主体的に行動することができていると思いますか。	自主・自律	生徒	24.9	46.5	23.7	4.9
11				家庭内において読書をしていますか。（電子書籍を含む）	保護者	25.8	53.7	17.1
12		家庭内において読書の授業について話し合うことがありますか。	読書	職員	0	43.5	52.2	4.3
13		困った時に相談できる友達はいらっしゃいますか。	友人関係	生徒	28.1	47.7	20.8	3.4

14		生徒会や行事、部活動等を通して、よい先輩・後輩の関係を築くことができていると思いますか。	人間関係	職員 生徒 保護者	26.1 39.8 21.6	65.2 47.4 56.3	4.4 7.9 16.8	4.3 4.9 5.3	
15	心	グループ活動や学校行事において、友達と協力したり自発的に取り組んだりして、周りの役に立とうとしていると思いますか。	協調性	職員 生徒 保護者	26.1 38.6 21.6	60.9 51.2 65.3	13 8.2 9.7	0 2 3.4	
16		体育大会や文化発表会などの行事に意欲的に取り組んでいると思いますか。	学校行事	職員 生徒 保護者	65.2 50.6 33.7	34.8 41.8 54.5	0 6.2 8.4	0 1.4 3.4	
17		自分の目標に向かって、様々なことに、あきらめず粘り強く取り組むことができていると思いますか。	粘り強さ	職員 生徒 保護者	17.4 36.8 14.7	69.6 47.7 53.9	13 13.5 27.9	0 2 3.5	
18		部活動や習い事、検定など授業以外の活動で、自らを成長させることができていると思いますか。	諸活動	職員 生徒 保護者	17.4 45 32.4	69.6 44.2 49.2	13 7.6 13.9	0 3.2 4.5	
19		ゲームやSNS等の使用において、節度やマナー、時間等を守ることができていますか。	ゲーム・SNS	職員 生徒 保護者	39.1 28.9 7.9	43.5 51.5 40	13 17 40.5	4.4 2.6 11.6	
20	体	けがや病気をしないように気を付け、健康に生活することができていますか。	健康管理	職員 生徒 保護者	8.7 45.9 20	87 45.9 66.3	4.3 6.5 12.9	0 1.7 0.8	
21		すべての命を大切にしようとしていると思いますか。	生命尊重	職員 生徒 保護者	26.1 58.5 41.1	69.6 38.9 57.4	4.3 2.4 1.3	0 0.2 0.2	
22		登下校中や学校生活において、安全に過ごすことができていると思いますか。	安全管理	職員 生徒 保護者	4.4 59.9 29.5	91.3 38 66.3	0 1.6 2.7	4.3 0.5 1.5	
23		学校は、生徒の学力を伸ばす努力をしてくれていると思いますか。	学力向上	職員 生徒 保護者	17.4 38 10	65.2 55.6 63.7	13 6.2 20.8	4.4 0.2 5.5	
24	学校職員	先生は、生徒や保護者の話を親身になって聞いてくれると思いますか。	教育相談	職員 生徒 保護者	43.5 44.7 22.6	52.2 50.3 68.7	4.3 4.5 7.6	0 0.5 1.1	
25		先生は、生徒を励まし、頑張りを認めてくれていると思いますか。	称揚	職員 生徒 保護者	39.1 48.5 21.8	56.5 46.2 69.2	4.4 4.8 7.9	0 0.5 1.1	
26		地域の活動（地域ボランティアや地域防災訓練）に積極的に参加していますか。	地域貢献	職員 生徒 保護者	8.7 23.1 7.4	65.2 29.8 30	26.1 35.1 42.1	0 12 20.5	

3 考察及び改善方法

(1) 校訓・学校教育目標・キャリア教育等について

【考察】

- ・校訓（自立・敬愛）に関わることとして、自分で考えて行動することができていると感じている生徒は85%、目標に向かって様々なことに諦めずに粘り強く取り組んでいると回答した生徒は85%であった。（※前年度とほぼ同様）また、95%の生徒が、思いやりや優しさをもって周囲の人と接していると回答し、94%の生徒が困った時に相談できる友達がいると回答した。先生は生徒や保護者の話を親身になって聞いてくれると回答した生徒は95%、先生は生徒を励まし、頑張りを認めてくれると回答した生徒は95%であった。※前年度と同等
- ・学校教育目標に関わることとして、90%の生徒が自分に誇りを持ち、学校生活に感動をもって挑戦することができていると答えた。※前年度より10ポイントアップ!

【更なる向上を目指すために】

- ・学校運営協議会等を通して地域の豊富な人材を活用し、各学年の目標に則した方法や内容で各種体験的な活動を実施し、望ましい大人像をもてるよう育みたい。
- ・生徒の良いところや頑張りを称揚し、「充実」をキーワードに学校生活の質を高めたい。

(2) 「高い知性」について

【考察】

- ・家庭学習の習慣が身に付いていると考えている生徒は76%であるのに対し、保護者は53% 教職員は44%であった。※前年度より生徒は6ポイントアップ、保護者・教員は5ポイント程度ダウン
- ・学校は学力を伸ばす努力をしていると感じていると回答した生徒は94%に上った。
- ・情報端末を使用したことで、ICTスキルや情報収集・活用能力を高めることができたと回答した生徒は89%であった。→一方で保護者の肯定的な意見はそこまで伸びず、学校での活用状況が十分に伝わっていないようである。※前年度と同等
- ・家庭学習全般において、生徒の肯定的な意見は多いが、職員及び保護者は家庭学習習慣について満足していない。

【改善方法】

- ・生徒が「やっているつもり」で終わらないよう、学年に応じた具体的内容や時間、望ましい学習の進め方を明文化し三者で共有する必要がある。そのために、学習オリエンテーションの内容を保護者に周知していく。→さくら連絡網で学校HPに掲載があることに触れる。
- ・タブレット学習の様子を発信したり、タブレットを使用した家庭学習を提示したりする。

(3) 「豊かな心」について

【考察】

- ・ルールやマナーを守って生活できていると答えた生徒は97%、道徳の授業の充実を感じている生徒や職員は90%を超えてるが、保護者は生徒が家庭で道徳の授業について多く語ってはいないと感じている。※前年度と同等
- ・あいさつに関する項目については93%の生徒が進んで行うことができると答えた。
- ・読書に関する回答は保護者・教職員の全てにおいて50%未満であり、生徒も54%である。
- ・集団生活の中で周囲と望ましい人間関係を築き、困った時に相談できる友達がいると回答した

生徒は多い。また、ほとんどの生徒は、学校における様々な活動を通して自らの役割を自覚して活動していると感じている。特に、文化発表会や体育大会等の行事には意欲的に取り組んでいると回答した。※前年度と同等

【改善方法】

- ・ 道徳授業の振り返りを教室掲示したり、三者面談で生徒の考えを紹介したりすることで、道徳授業の様子を保護者に発信していく。(今年度、1年生で行った「いいところ見つけ」を保護者に紹介したところ、たいへん好評であった)
- ・ ブログに、学校行事だけでなく道徳授業の様子を載せる。
- ・ 読書については、①登校後、朝の会までの時間に読書を推奨する、②昼休みの図書室開放日を今年度より増やす。(行事練習日を調整して昼休みの読書時間を確保する)

(4)「健やかな心身」について

【考察】

- ・ ゲームや SNS の使い方に関して、マナーや時間を守れていると考えている生徒が80%であるのに対し、保護者は48%と低い ※前年度より生徒は6ポイントアップ、保護者は3ポイントダウン
- ・ 学校生活や登下校における安全、自他の存在を尊重したり全てのいのちを大切に思ったりする態度等に関する数値は極めて高く、生徒は安心して学校生活を送ることができていると考えられる。
- ・ いじめについては、昨年度に引き続き、今年度も教職員が年度当初に「中郡中学校いじめ防止基本方針」を周知徹底する機会を設け、単なるけんかやトラブルと捉えず、組織として対応し、慎重に見守る体制で指導を続けてきた。今年度に本校が認知したいじめ件数は、1月末の時点で72件である。昨年度1月末までに認知したいじめ件数は94件であり、今年度は22件減少した。6月に生徒が主体となって、いじめを防止するために何ができるかについて考える機会を設けたことが、いじめを未然に防止することに繋がったと思われる。
- ・ 学期ごとのいじめアンケートを教育委員会と連携して行い、積極的に認知し早期発見・対応に努めた。一方、職員からアンケート後の聞き取りに要する時間が不十分だったと声が上がった。

【改善方法】

- ・ SNS 等の使い方については、望ましい態度やスキルを身に付けられるよう、継続的かつ計画的な指導が必要である。そのために、学期に1回程度、道徳や学活の時間に「情報モラル」や「SNSの使い方」をテーマにした学習を位置づける。
- ・ 学期の振り返りに「SNSの活用」を入れることで、生徒の情報モラルへの意識を向上させる。
- ・ 外部機関の講座を積極的に活用し、専門家の視点からも生徒に啓蒙していく。
- ・ 幼小中の連携を大切にして、情報交換を定期的に行い、効果的な教育計画の中で、校区全体で生徒を見守っていききたい。また、地域の行事に積極的に参加するよう生徒に呼び掛けたり、地域の方に学校の教育活動に積極的に関わってもらったりすること等を通して、地域全体で生徒を見守る体制づくりを進めていきたい。
- ・ 令和8年度も教職員へいじめに関する研修を行い、積極的な認知に努める。
- ・ 生徒会を中心に、生徒が主体となっていじめについて考える機会を設けたい。
- ・ 令和8年度はいじめアンケート後に必ず二者面談を行える時間を確保し、丁寧な対応に努める。

4 学校関係者評価

2月17日(火)に開催した学校運営協議会において、自己評価結果や考察及び改善方策について委員に報告した。委員からは以下のような意見があった。

【いじめ・不登校に関すること】

- ・いじめの件数が減ったことはとても大きいことである。先生方の努力が実った。
- ・いじめをなくすために生徒が主体となって動いている。いじめの積極的な認知は、必ずいじめの早期発見につながる。
- ・いろいろな子がいるが、先生方はどの子も置き去りにせず、親身になって関わってもらいたい。

【学習に関すること】

- ・学習習慣に関して、先生たちの評価は厳しめという印象。(これについて学校側への質問があったため、「主体的学び」の評価の影響もあり教員の評価が厳しくなっていることが考えられるという回答をした。)生徒たちは家庭で宿題をすればいいという意識だとしても、先生たちはもっと高いものを求めているということを伝えたらどうか。

【読書・道徳に関すること】

- ・読書については、ゲーム等の別の娯楽の誘惑によって機会が減っているのではないか。
- ・道徳の授業内容の紹介や良い本の紹介などを行い、保護者へのPRを積極的に行うとよい。
- ・SNSの使い方について道徳の授業で扱うことも大事である。
- ・道徳授業の公開をすると、保護者に伝えることができる。

【キャリア・学校目標に関すること】

- ・キャリア教育について、生徒と保護者の回答に差がある。保護者は心配な面もあるようだが、「中郡中の良いところ」という廊下掲示や子どもたちのアンケート結果がリンクしていたので、子どもたちは将来を見通していると考えられる。
- ・SNS使用については、偏った情報だけが入るため、他者の意見を受け入れられなくなりそうで心配である。他者の意見をどう取り入れるかを考えてもらえると、子どもたちの視野も広がる。
- ・挨拶に関しては、自宅付近を通る小中学生に挨拶すると、大抵の子は挨拶を返してくれる。

5 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・いじめに関する点では、引き続き「積極的な認知」をするとともに、生徒会を中心として作成した「Ⓜ中なかよし3か条」を活用して生徒からもいじめのない集団を目指すような啓発活動を継続していく。※「生徒主体」は令和7年度からの大きな変化であり、要継続。
- ・学習に関しては、学習オリエンテーションの内容をさくら連絡網やHPを活用して保護者にPRしていく。その際、どういう家庭学習がよいのかという点についても触れられるようにすることで、生徒や保護者と教員との意識の差をなくしていけるようにする。
- ・読書については、3(3)で示したように読書をしたいと思える環境を整備していく。
- ・保護者へのPRが非常に大切である。そのため、評価の高い学校行事だけでなく、道徳の授業や普段の学習の様子等もHPや連絡網、掲示物や三者面談を活用して積極的にアピールしていく。
- ・SNSの使い方については、集会や講話、道徳授業等、あらゆる場面で計画的かつ継続的に指導していく。
- ・学校運営協議会を通じて地域の資源を学校教育に活用し、協働して子どもを見守っていく。